2025 年 5 月 30 日 第 3513 回例会

於： 横須賀商工会議所

＜点鐘・開会＞ １２：３０ 高 橋 会長
＜斉　　唱＞ 「我等の生業」
＜ゲスト紹介＞ ＊海上自衛隊護衛艦隊司令官 海将 伍 賀 祥 浩 様
＊海上自衛隊護衛艦隊司令部 副官 山 際 雅 貴 様
＜会 長 報 告＞ ＊新入会員入会式
＊ガバナー事務所から
・２０２４－２０２５年度地区ローターアクト委員会
ローターアクト社会奉仕活動（海岸清掃）のご案内
６月１５日（日）１０：００集合 １０：００～１２：００清掃活動
１２:００～１４:３０親睦会 集合場所：滑川交差点（さくら貝の歌 歌碑前）
＜委員長報告＞ ＊松川会員、堀川会員より新会員と集う会 報告
＜幹 事 報 告＞ ＊例会終了後 お別れの会打合せ（歴代会長）
＜出 席 報 告＞ ＊出席委員会 角井副委員長から５月３０日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM 出席数)	欠 席 数	ﾒｰｸｱｯﾌﾟ数	出 席 率
１１２名	１０５名	６８名(６名)	３７名	３名	67.62%

メークアップ：権田、萩原 両会員 横須賀ＲＡＣ出席 真野会員 三浦ＲＣ出席

＜ニコニコ報告＞
・三 役 海上自衛隊護衛艦隊司令官 海将 伍賀祥浩様、副官 山際雅貴様お忙しい中、卓話をお引き受け戴き有難うございます。お話しを楽しみにしております。宜しくお願いします。
・井 上、八 巻、植 田、杵 渕、小佐野、杉 浦、江 沢、江 口、田 中、田 邉、鈴木㈲、前 田、徳 永、澤 田、吉田㈱、齋藤㈱、波 島、土 田、梁 井、飯 塚 各会員
海上自衛隊護衛艦隊司令官 海将 伍賀祥浩様、副官 山際 雅貴様ようこそお越しくださいました！横須賀に深く関わる海、海上自衛隊の卓話も楽しみにしております。よろしくお願いいたします。
・上 林 会員 誕生月祝い、入会月祝いとして
・三 役 池田会員、ご入会おめでとうございます。ロータリーライフを楽しみましょう。
・大 石、加藤㈱、椿、八 巻、植 田、杉 浦、角 井、梶 木、上 林、鈴木㈱、藤 村、岡田㈱、長 尾 各会員
池田亨会員入会おめでとうございます。ロータリーでの新たな出会いと経験を共に楽しみ、充実した日々を送りましょう。
・池 田 会員 本日より入会させて頂きます横浜銀行の池田でございます。これからどうぞ宜しくお願い致します。
・１番テーブル吉田㈱マスター、三井サブマスター １番テーブルミーティングを５月２３日甲羅本店にて行いました。高橋会長体調悪い中ご出席頂き、差入れまでありがとうございました。ご参加の皆様ありがとうございました。
・松本㈱、波 島、堀 川、長 尾、野 坂、物 井 各会員
５月２３日、１番テーブルミーティングを甲羅本店で行いました。楽しい一時でした。又、小澤会員よりチーズケーキ土産品ありがとうございました。マスター吉田さんサブマスターの三井さん手配お疲れ様でした。
・高 橋 会長 テーブルミーティングに出席させて頂きありがとうございました。
・前田ガバナー補佐 先週末２４日土曜日に開催された第１グループ「新会員と集う会」にご出席の方々、有難うございました。お陰さまで３８名の参加で盛会となりました。ロータリー活動を

通じて豊かな人生を送りましょう！お帰りなさい、上林さん！！

・上　林　会員　長い間お休みさせていただきました。未だリハビリで頑張っております。本日５７回目の入会祝を９４回目の誕生祝をいただきました。今後ともよろしく！

・江　沢、高　橋、小林㈱、野　坂、吉田㈱、飯　塚、小山㈱　各会員
上林さんお久しぶりです。お元気そうでなによりです。

・木　村、石　田、高　橋、佐久間、前　田、徳　永、
波　島、北　村、松　川、齋藤㈱、三　堀　各会員
小泉進次郎さんが農林水産大臣に就任されましたね。備蓄米がなくなったらどうなるのか不安もありますが小泉大臣のスピード感ある対応に大いに期待しています。

・岡田㈱、岡田㈱、勝　見、山　下、比　護　各会員　ヤチヨの鈴木会員、昨年にひき続きホールインワンおめでとうございます。人生３度目すごいですね！！

・鈴木㈱　会員　ニコニコありがとうございます。

＜卓　　話＞　　「 海上自衛隊の取組と今後の方向性 」

海上自衛隊護衛艦隊司令官
海将　伍　賀　祥　浩　様

初めまして、護衛艦隊司令官を務めております伍賀と申します、平素から防衛省、海上自衛隊にご協力、ご理解を賜り本当に感謝しております。本日は有力メンバーのおられる中でこのように話をさせていただく機会をいただきましてありがとうございます。「海上自衛隊の取組と今後の方向性」ということで、防衛省海上幕僚監部のオーソライズを得た資料で、特定防衛秘密漏洩に至らない範囲でいろいろなことを申し上げたいと思います。では進めてまいりましょう。

伍賀　祥裕と申します。岡山県生まれで、千葉船橋で育って防衛大学校に進み、この仕事を続けております。ちょうど私が防大に入った頃はバブル景気の時期で、いろいろな会社の案内もいただいておりましたが、陸の２尉の指導官に本当に立派な方がおられ、自衛隊もなかなかいいぞ、と言ってくれまして、そのお言葉がきっかけで今日まで続けてまいりました。その方が今の統合幕僚長の吉田陸将です。その後は候補生学校を出て、国立政策研究大学院に進ませていただいたり、アメリカにも研修に出していただきました。経歴の中では横須賀での配置にて街の方に親切にしていただきました。勤務態様別の割合では、３３％が海上勤務、１４％が陸上で学校教育を受けたり、外学院研究科で修士学位取得の勉強した時間を意味しています。また、海上幕僚監部や統合幕僚監部など様々なところへ配置され、様々なことをチャレンジしながら次第に大きな仕事を任されていくということをご理解賜ればと思います。

では、本題に入ります。護衛艦部隊がどのようなことをしているか、私どもが内部から取り組んでいる、より精強でより誠実な組織とするための検討でありますとか、実践していることをご紹介します。それから、防衛力の抜本的強化の進捗状況や、トピックスとして横須賀に関連するところを２つご紹介したいと思います。

では、護衛艦隊がどのようなことをしているかについてお話いたします。そもそも海上自衛隊というのは、我々の最高指揮官である内閣総理大臣、防衛を所管する防衛大臣、それを主として作戦面から支える統合幕僚長、そして管理を中心に補佐する海上幕僚長がいて、その下にある主力部隊のいくつかの一つが自衛艦隊です。水上艦約８０隻、航空機約１９０機、潜水艦約２０隻、隊員約２万８０００人からなる組織であり、水上艦部隊である護衛艦隊、それから航空集団、潜水艦隊等のようなチームから構成されています。護衛艦隊には、１から４までの護衛隊群というグループがあり、さらに１１から１５までの護衛隊というサブグループがあります。そして訓練指導するグループ、補給隊、それを束ねる部隊がいます。

ここで申し上げたいのは、やはり横須賀が本拠地だということです。我々のオリジンであり、帰るところであり、現に活動を支える街だということです。護衛艦隊を見渡しますと横須賀から時計回りに呉、佐世保、舞鶴、大湊にもございます。私は運が良くて、どの任地もどの地区の隊員とも勤務をしました。どこも特徴的で思い出深いし、素晴らしい街だったと思いますけど、自分のキャリアを重ねてもやはり横須賀という街はとても思い出深い任地です。これまでもそうでしたし、結びの何年間もしっかり努めたいと思う街であります。多分、多くの隊員がそういうふうに思っております。護衛艦隊司令部の所在するところは船越町７丁目、学校のような大きなビルがございますけど、そこにみんなで集中集約して暮らしております。心配なのは、一箇所に集まっているので一撃でやられてしまうという課題があり、サブ基地というか、代替基地のような仕組みも研究をしておりますし、電力、水道、その他も複線化を図ったりと、いろいろ取り組みを行っているところです。

さらに、護衛艦隊がどんなことをしているかをお話いたします。大きくは我が国周辺の警戒監視のため、艦艇を派遣したり、他国の海軍と共同訓練をして自由と平和を目指して一致団結している姿勢を見せつつ、技量を高めるという取り組みをして、悪いことを考えている国に過ちを起こさせないような抑止のメッセージを送っております。一方で皆様ご存じの通り、海賊がまだ絶滅には至っておりませんので、部隊を派遣して海上保安庁の仲間ともタイアップしてやっております。それから、中東における情報収集活動をして、国益に資するような取り組みを続けております。さらに関係部隊を、例えば南太平洋諸国に派遣をして先ほど申し上げました連携を強化したり、あるいは地元の海上警察などの技能向上に資するような取り組みを続けております。また、海外派遣訓練と称しまして、ハワイを中心に行う戦術技量を高める訓練も実行しております。最近はインドあるいは中東方面の海にも部隊を出しております。

ここで、これは恥を偲んでというところもあるのですが、こういう取り組みで我々自身が修正をかけていることをご紹介申し上げます。それは、より精強、より誠実な組織とするための検討です。特定秘密の漏洩事案、潜水手当の不正受給や不正喫食、「いなづま」という艦がよく研究をせずに航路の危ないところへ突っ込んで結果として艦を壊して大変な額の損害を国、政府、国民の皆様に与えてしまいました。我々はそれらを振り返り、順法精神や保全意識、責任感にしっかり取り組まなければいけませんし、合わせて我々の福利厚生といったところもコツコツ改善していく取り組みを行っております。まずは責任感を持って多くの者がしっかり取り組み、道を踏み外す者が出ないような努力を今改めてやっております。辛い事も含め、教訓をきちんと引き継いで言って聞かす事例として、航空機２機が空中で衝突を起こして８名が亡くなった事例があります。そういうことが二度と起きないよう繰り返しやっていくことが大切だと思います。自衛隊は春を中心に２０００人が入隊して、１年で２０００人が辞めています。絶えず人が変わっていく組織でもありますので、皆様が経営される組織もそうかもしれませんけども、教訓などがきちんと語り継がれるように、また、制度もいずれどうしても陳腐化しますから、絶えず見直しを行って良くなるようにしていかなければいけないと思っています。

次に防衛力の抜本的強化についてご紹介します。現有装備品等の充実最大活用を図りながら、新たな戦いへの対応を図っており、例えばスタンドオフミサイルを整備してそれを使える体制をつくるなど、周りの国に間違いを起こさせないように抑止する体制を作っております。合わせて、それらの根幹である人的基盤の強化をやっていこうとしています。令和７年度の予算で２兆２４９７億円もの投資をしていただいています。非常に大きな額をいただいています。ただ、海外とお仕事をされている方はご存知のように、為替のことなどを考えますと、今までと同じような買い物をしていたらやはり足りないというような話もあります。資材、それから工場の方も人が足りなくて工事ができない状況が出てきていますので、我々自身が慎ましくもう一回見直しをかける一方で、他に次の手はないか等の検討を省内外でやっております。トマホークについては、サンディエゴでの１１ヶ月のいろいろな改修をしながらトレーニングを受けて使用する予定です。合わせて、武器を積んで武器の操作方法を習ったら終わりではなく、意思決定の仕組みを整えながら、順法精神や責任感について改めて明記しながら、きちんと全体としての仕組みを作ることが必要だと考えており、現にそのように取り組んでおります。

その他、ネットワークの研究でありますとか、新しい船の導入ですとか、他国間の衛星通信帯域共有の枠組み等、その他いろいろやっております。やはり、通信機材、情報通信やサイバーセキュリティが非常に大切な時代でもありまして、その意味では、横須賀地区には情報通信の研究所が多数あり、陸上自衛隊の通信学校、防衛大学校、ＮＴＴの研究所などもありますので、そういった部分で地域との連携がいよいよ大切だ

と思っております。そういった研究所を下支えする会社をお持ちの方もおられるでしょうし、ファイナンスされている会社もおられるでしょうから、引き続き連携を是非ともお願いしたいと思っております。導入したものもそのままにすれば壊れるわけで、きちんとした部品を統計学的な論拠に基づいて備えて、それを前線にフィードして戻ってきたものはすぐ直すといったことも合わせてやりながら、国民の皆様からお借りしている海上自衛隊あるいは自衛隊の資産をきちんと運用しなければいけないという取り組みを進めております。土地の施設整備も同様であります。歴史的な資産はもちろん大切にしなくてはなりませんけれども、洪水とか津波などの事前災害やその他あり得ますので、いろいろな整備を進めております。地元の工事業者の皆様とも連携をしながら、安全に街の方々にご迷惑をおかけしないようにしながらやっております。

さて、水上艦隊のお話をここで申し上げたいと思います。令和７年度末になると思いますけれども、護衛艦隊部隊は掃海部隊と地方隊にある部隊を集約、合同して水上艦隊という新しい組織に変わります。この狙いとするところは、先ほどお話しした人手の問題、資産の問題を極力標準化すること、掃海部隊や地方隊の隊員と護衛艦隊にいる隊員の行き来をしやすくすること、あるいは技能管理などの人を養成していくところも極力共通化して無駄のないようにすること、あるいは機材も共通化したいという目論みを持って実施をするものであります。人的基盤の方も政治、国民の皆様のご理解を得て、いろいろな工夫をしております。ハラスメントの根絶についても、せっかく大切な仲間が入ったら最後まで勤め上げていけるように、あるいは途中で辞める者がいても気持ちよく街に帰っていけるように、そういった工夫をして間違いのないようにしていきたいと思っております。

トピックスとして２件ご紹介します。日本のフラッグシップであり、横須賀のフラッグシップである「いずも」がございますが、現在横浜にありますＪMUでF－３５Ｂという航空自衛隊が擁する戦闘機を艦上でも使えるような改装を進めております。これも国民の皆様、そして三浦半島、横須賀の皆様からお預かりしている大切な資産ですので、しっかり戦力化をして、しかるべき相手に備えて戦争を抑止したいと思っております。次に「レールガン」。これは「あすか」という横須賀にある試験艦で逐次試験を進めております。大量の電力と電磁波をかけて、すごいスピードで弾丸を撃ち出すという武器であります。レーダーシステムとの連携や情報室との連携など、まだまだ課題もあります。これも日本の技術、英知を集めてやっていかなければと思っております。作戦する士官の立場からすると早く出来ればいいのですが、技術政策の観点ですとか、防衛装備品のメーカーをいかに維持していくかという広い意味での防衛政策の観点もありますので、しっかりこういった先進技術に対する挑戦をしながら、日本の知恵や技術が発展するように我々も寄与していきたいと思っております。

いずれにしても、精強な水上部隊が誠実に正しい道を歩みつつ、足らざるところは率直に意見具申して、道を正しながらやっていきたいと思っております。引き続きのご指導、ご助言、ご協力を賜ればと思います。ご清聴ありがとうございました。

＜閉会・点鐘＞　１３：３０　高　橋　会長

週報担当　杵　渕　哲　也